

ロシアSF瓦版 「かぜのたより」 第4号

◇大流行のブログ、ライブジャーナル

ロシアでもブログは大流行しているが、特にSFファンにとって見逃せないのはライブジャーナルというブログサービスである。したがって、ロシア語では«Живой Журнал»、略称«ЖЖ»と呼ばれている。

ライブジャーナルは、1999年にアメリカで立ち上げられたサービスで、元来はアメリカや英語圏を中心に広まったもので、ジョン・クロウリーとかジョージ・R・R・マーティンといったアメリカのSF作家も利用して非常に興味深い。ロシアでは、2002年のチェチェン武装勢力によるモスクワの劇場占拠事件の際に、ライブジャーナルを通じて人質からの情報が広まり、ライブジャーナルが情報媒体として注目を集めた。それはさておき、ロシアではSF作家に異常に利用率が高く、作家本人が新刊の告知をしたり、評論家が書評をあの雑誌に書いたなどという宣伝をしたり、私的な批評をしたり、おれは今度あのSF大会に行くと言ったりと非常に活発なやりとりがなされている。

機能の特徴としては「友達」の機能があり、ミクシィとは違って相手を一方的に「友達」に加えることができ、「友達」の新着記事が自分のホームに一覧で出てくるため、非常に情報が得やすいという点がある。筆者のような立場の場合、情報がたくさん出てきそうな人を「友達」機能で指定しておけば、ロシアSFの最新事情が毎日見られるというわけなのである。

ライブジャーナルはミクシィのように公開対象を友人に限定したりもできるのだが、ロシアではそのような使い方はほとんどされていない。ユーザー名も任意だが、これもほとんどの場合は本名がわかっている場合が多く、中心的なメ

ンバーは顔見知り同士である。

そして、コミュニティなどもあるのだが、そのなかには ru_fandom という名の、ライブジャーナルにどんなSF関係者が参加しているかということを紹介するだけのブログもある。これらによれば、作家ではゲヴォルキャン、ラザルチューク、ルキーン、クバチエフ、トゥルスキノフスカヤ、クドリャフツェフ、ルキヤネンコ、グロモフ、ブルキン、ロマネツキイ、クルーゲル、ワシリエフ、ディヴォフ、ゾリチ、チューリン、シチェゴレフ、ハエツカヤ、カガーノフ、オヴチンニコフ、ペルヴェーシンなどが参加しており、評論家やファンでは、チェルトコフ、ベレジノイ、ラリオーフ、ウラジーミルスキイ、ハリトーノフ、バイカーロフ、セルゲイ・ネクラソフ、ポリソフ、コレスニコフ、ヴォロジーヒン、ヤクボフスキイ、ビチュツキイといったかなり濃い人たちが参加している。ラリオーフやウラジーミルスキイやチェルトコフの名前をみると、「やっぱり」という気分になる。要するに、かつて紙媒体で同人誌を作り、パソコンが普及してからは電子版のニュースレターを作っていた人たちがブログに流れてきたということなのだろう。しかも、お互いにコメントも書き合えるときは、そんなに楽しいことを逃すはずもない。かくしておしゃべりで陽気なロシア人はライブジャーナルに集結したのであった。その結果、一部の寡黙かつ思慮深い人を除いて、ロシアSFの核となる人物はほとんど参加しているといってよい。ロシアSFのコンベンションの情報などはかなり確度の高い

ものがでてくるほか、SF賞の報道は非常に速い。だって運営している人たちの記事なのだから。

しかも、コメントのつけ方が尋常ではない。しかも、たいいてい人はコメントに対していちいち返事を書くため、ひとつの日記に対して延々とツリー状のコメントのやり取りがあることもまれではない。そんなに書き込むなら電話でしゃべれよと思わないでもない。コメントは多いときで200を超えたりすることもある。明らかにこの人たちはネット中毒である。

話が脱線しているが、ロシア人のライブジャーナル利用法は日本のミクシィほど内容や書き方を限定したものではなく、広い読者に向かって書くため、ある程度の公共性を保った言論空間になりえている。2006年のロシア・ブッカー賞の最終候補作が発表されたときも、どの候補が受賞するかが議論になっていたが、ロシアのSF作家たちは一致してオリガ・スラヴニコワの『2017』を推していた。その際、スラヴニコワはSF作家なのか？というコメントも来たが、それに対して延々と議論が続いていた。

だが、ライブジャーナルに現われるのはこうしたネット中毒の人たちばかりではない。明らかに場違いで、パソコン自体そんなに使う習慣ないだろうといった人物もかつてはライブジャーナルに出没していた。そう！ロシアSFファンダムの伝説上の人物であるボリス・ザヴゴロドニイと愛すべき永遠の酔っ払い作家アンドレイ・サロマトフがライブジャーナルに参加していたのだ！恐るべし、ライブジャーナル！

ザヴゴロドニイは普段は自分の日記などほとんど書かないのだが、ある日、突然何を思い立ったのか、昔話を書き綴り始めた。それがあまりにも長いため、適当なところで分けて投稿しているのだが、連続投稿するために「友達」

の新着記事のページが全てザヴゴロドニイの日記で埋まるという非常事態が発生したのである。しかも、ザヴゴロドニイの日記は古代ナイル川の洪水のようにいつ果てるとも知れず、他人の書いた日記はすべてその合間に埋もれていった。合掌。ルキーンがカット機能を使え！と何度もザヴゴロドニイの日記に叫びながら書きこんでいたが、すべては徒労に終わった。

サロマトフは明らかにブログの使い方を間違えていて、筆者はいきなり「コウジ！気分はどうだ？」という書き込みが彼の日記にあるのを見て仰天したことがある。そういう特定の人への呼びかけは普通はしないもんなんだよ！しかし、私はロシアのSF界ではサロマトフと似た者同士という評価が定まっているらしく、サロマトフが書くとコウジも書くんだよなどとライブジャーナル上で書かれていた…その点については何も言えない。

ちなみに、両者とも現在はライブジャーナルを去り、彼らの残した記事は全て消えた。ボリス、アンドレイ！カムバック！

◇ 編集後記

第4号をお届けします。月に2回出すという抱負はどこへやら。どうせ、年末から箱根駅伝にかまけていたのだろうという勘繰りはなしでお願いします。師ですら走る12月。末席の者に座る暇なし。

遅くなりましたが新年明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしく願いいたします。

ロシアSF瓦版:かぜのたより

第4号 2008年1月7日発行

編集人 宮風耕治

e-Mail k-veter@dream.ocn.ne.jp